病院の実力 ～神奈川編 151

首の病気

手術適応 専門医受診を

今月と来月は脊椎脊髄の病気を取り上げる。今回は「首の病気」で、脊椎脊髄専門医のいる医療機関の2019年の手術実績などを掲載した。

頸部の脊椎（頸椎）は、7個の椎骨と、その間でクッションの役割を果たす椎間板でできている。

脊椎の中には、脳からつながる中枢神経（脊髄）が通っている。ここから枝分かれした神経を「神経根」と呼ぶ。首の病気は、椎間板の老化など様々な原因で脊髄や神経根が圧迫されるもので、起きる場所により「脊髄症」「神経根症」に分かれる。

「脊髄症」で最も多い「頸椎症性脊髄症」は50歳以降の男性に多く発症する。手の痛みや、洋服のボタンがかけづらいなどの運動障害が見られ、症状が進むと下肢にもしびれが及ぶ。進行性の場合は早めに手術をして、骨の一部を取り除くなどの対応が必要だ。

「頸椎後縦靱帯骨化症」は、頸椎の背中側にある後縦靱帯が骨のように厚く硬くなり脊髄を圧迫する。鎮痛薬の投与や運動療法のほか、悪化が想定されれば手術も検討する。椎間板の組織が壊れて中身が飛び出す「頸椎椎間板ヘルニア」は、30～40歳代の発症が多い。

「神経根症」の場合は、脊髄症と異なり、安静にすることで症状が改善することが期待できる。

首の手術は繊細な技術が必要だ。専門医のいる医療機関での受診が望ましい。

病院の実力「首の病気」
医療機関別2019年治療実績
（読売新聞調べ）

医療機関名	手術人数 頸椎症性脊髄症	頸椎後縦靱帯骨化症	頸椎椎間板ヘルニア（脊髄症）	頸部神経根症（頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症）	脊椎脊髄疾患専門医 20年9月現在（常勤）人
新百合ヶ丘総合	73	27	8	19	5
横浜南共済	71	36	10	10	4
横浜労災	71	16	11	4	3
済生会横浜市東部	56	18	8	7	3
北里大	47	3	3	2	7
東海大	45	14	14	11	6
市立川崎	40	5	9	12	3
伊勢原協同	36	3	3	1	4
湘南藤沢徳洲会	31	0	2	8	1
横浜市立脳卒中・神経脊椎セ	30	8	1	5	1
昭和大藤が丘	22	7	10	7	2
横須賀共済	21	3	3	0	2
横浜市大病院	20	5	2	10	1
総合新川橋	20	1	0	4	1
昭和大横浜市北部	20	2	0	0	2
湘南鎌倉総合	20	6	2	6	4
横浜市立みなと赤十字	19	3	20	26	3
藤沢市民	18	1	1	0	1
東名厚木	14	1	3	17	1
新横浜スパインク	12	15	40	76	1
小田原市立	10	1	0	0	1
聖マリアンナ医大横浜市西部	9	2	2	2	1
平塚共済	8	4	3	0	1
横浜市立市民	7	0	0	0	2
横浜掖済会	6	0	0	0	1
聖マリアンナ医大	6	0	3	0	2
横浜新都市脳神経外科	5	3	0	2	1
東戸塚記念	5	1	2	7	2
川崎幸	4	0	4	1	1
厚木市立	3	4	0	1	2
藤沢湘南台	3	—	—	—	1

「セ」はセンター、「ク」はクリニック、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は16日の「安心の設計面」に掲載しました。

内視鏡や顕微鏡で手術

新百合ヶ丘総合病院
脊椎脊髄末梢神経外科部長
低侵襲脊髄手術センター上級顧問
水野 順一

「頸椎症性脊髄症」は年齢が上がるごとに症例が増える。スマートフォンを見たり、パソコンで仕事をしたりするうちに、長時間悪い姿勢でいることが多くなりがち。日頃から姿勢には気をつける必要がある。

適度な運動も大切だ。高齢者なら、20分ほどのウォーキングやラジオ体操でも効果がある。糖尿病などにかかると、手術が成功しても症状が一段と悪化する場合もある。生活習慣病には気をつけたい。

「椎間板ヘルニア」は交通事故やスポーツ外傷なども原因となるため、若い世代でも発症する。「頸椎後縦靱帯骨化症」の原因は遺伝で、昔は難病に指定されていたが、現在は症状が出たら手術を勧めている。

脊髄は脳と末梢神経の中間で、四肢の動きや感覚に非常に大切な役割を担っている。当院では、脳、脊髄、末梢神経を一体化して診察、治療する。手術が必要な患者には、本来の生活に早く戻れるように、内視鏡や顕微鏡を使った低侵襲手術を行う。

顕微鏡の手術は3～5センチほど体を切開して神経に光をあてる。内視鏡の手術も体の後ろから7～18ミリの内視鏡を挿入するが、体への負担は大きくない。当院は予防的な手術は行っておらず、痛みやしびれの原因を見極め、その一点を治療するために手術を用いる。結果として、治りもよく、早く社会復帰ができる。

頸椎症性脊髄症や椎間板ヘルニアは症例数は多いものの、命に直結する病気ではなく、鎮痛剤などで治療していくこともできる。普通の日常生活が送れないほどの痛みや運動障害があるときは手術を勧めている。